

論文内容要旨

※ 整理番号		(ふりがな) 氏名(自署)	印
学位論文 題 目	注意における判断関連活動に与える影響 (Influence of attention on decision related activity)		
キーワード	注意、判断、反応時間、脳波		
<p>論文内容要旨</p> <p><背景・目的></p> <p>ヒトは自分の目的に応じて対象を注意 (attention) することで、外部環境から必要な情報だけをとらえ、速く正確に判断することができる。また状況が変わると、瞬時に注意する対象を変えて、適応的に判断することができる。このように、注意はなくてはならない機能であるが、その脳内メカニズムは解明されていない。</p> <p>本研究では、注意を向けた時と、向けなかった時の脳波を計測し、注意が判断の脳内プロセスに与える影響を検証することを目的とする。</p> <p><方法></p> <p>指標を左右に1つずつ提示し、どちらかの運動方向を答えさせる課題を用い、頭頂葉の陽性波 (CPP) と外側後頭側頭葉の初期の陰性波 (N2) の脳波計測を行った先行研究をベースにして、新たに Posner 課題に改変して実験した。また注意を向けた時 (Cue valid: 矢印の向きと同じ側のドットが動いた) と、向けなかった時 (Cue invalid: 矢印の向きと反対のドットが動いた) の脳波を計測し、注意が判断の脳内プロセスに与える影響を検証した。</p> <p><結果></p> <p>心理測定の結果では、注意を逸らした時 (Cue invalid) より注意を向けた時 (Cue valid) の方が反応時間は短く、刺激強度が強い程反応時間が短かった。</p> <p>脳波測定の結果では、刺激強度が強い時の方が刺激強度が弱い時と比べて、事象関連電位の振幅は大きく、Cue valid より Cue invalid の方が振幅は大きかった。</p> <p>刺激強度が強い時の CPP の結果では、陽性の方に鋭く上昇し、ボタンを押す直前にピークを迎えている。一方、刺激強度が弱い時では、緩やかに上昇してピークを迎えた。ボタンを押す直前には、刺激強度が強い時と同様にピークを迎えている。</p> <p>N2 は刺激強度による陰性波の振幅は大きいですが、注意によっては変わらなかった。</p> <p><結論></p> <p>注意は指標の選択に影響しているのではなく、情報収集の感度に影響していると考えられる。</p> <p style="text-align: right;">(文字数 733)</p>			

備 考

- ※印の欄には記入しないこと。
- 論文題目が英語の場合は、() を付し、和訳を付記すること。
- 論文題目が日本語の場合は、() を付し、英訳を付記すること。
- 論文内容要旨は、研究の目的、方法、結果、考察、結論の順に日本語 (600 字程度) 若しくは英語 (半角 1,500 字程度) でまとめ、文字数を記載してください。(手書き不可)。

論文内容要旨(続紙)

(ふりがな)
氏名(自署)

印

--	--